

全国科学館連携協議会東海ブロック
2020 年度東海ブロック研修会
報告書

東海ブロック事務局
名古屋市科学館
静岡科学館

1. 概要

研修会は 2021 年 2 月 17 日(水)に Zoom を用いたオンライン形式で実施した。昨年度の段階で、研修会の開催場所として岐阜県先端科学技術体験センターが検討されていたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、幹事館の名古屋市科学館と静岡科学館で相談の上、オンラインでの実施に変更した。研修会のテーマは新型コロナウイルスの対策として、各館で行われつつある「動画製作と SNS」とした。なお、Zoom で実施するにあたって、ミュート設定やユーザー名設定などのお願いを司会用カメラに開始まで掲示したほか、発言残り時間をタイマーで表示させるなどして参加者に分かり易いように進行した。事前に発表者のスライド動作確認は行っていたが、本番時にスライドが参加者に表示されないケースがあったが、その他は特にオンライン参加のトラブルは発生しなかった。

2. 当日スケジュールおよび研修会参加館

開催日:2021 年 2 月 17 日(水)13 時～16 時(Zoom を用いたオンライン形式)
参加館:東海ブロック 12 館、東海ブロック以外から 4 館及び連携協事務局
※別紙 1 参照。

3. 研修参加館のコロナ禍開館状況報告

研修会の冒頭に、参加館及び自己紹介を兼ねて、各館のコロナ禍での開館状況や新型コロナウイルス対策について紹介してもらった。各館ともに、入館時の消毒や検温、定員・入室・入館制限、換気、会場の変更など三密対策をそれぞれの館の状況に応じて行っているが、総じて例年に比べての来館者数減少が顕著であった。

4. 事例発表「動画制作の手法」

事例発表は、臨時休館を機に YouTube などの動画投稿サイトを利用し始めた施設が多く見受けられ、各施設の特色を活かした様々な動画が公開されていることから、動画制作における手法や工夫、また裏話などを共有し、よりハイレベルな動画制作のノウハウを共有することを目的として「動画制作の手法」をテーマに行った。静岡科学館、浜松科学館、名古屋市科学館の 3 館が事例発表を行った。

静岡科学館は展示担当による館内で楽しめる展示体験アイテムの紹介と、企画担当によるスタッフが一押しする科学映像について、動画作成の環境やシナリオの工夫、撮影の仕方など気をつけている点を紹介した。

浜松科学館は 3 月から 5 月まで休館日を除いてほぼ毎日配信した 80 本の動画について、コンセプトやテーマ設定の仕方、学校の授業で用いられるなどの配信の反響について紹介した。

名古屋市科学館は学芸員を活かした動画づくりと天体観望会ライブ配信について、学芸員の専門性をサイエンスショーの手法やクロマキー合成を取り入れた工夫、ライブ配信の機材やメリットを紹介した。

※別紙 2 参照

5. 講演会「SNS フレンドリーなミュージアム環境の構築に向けて」

講演会は、SNS をミュージアムがどう活用していくかについて、全国科学博物館協議会などでも発表されている岡本真氏に講師を依頼した。ミュージアムの SNS で話題になった事例をケーススタディに、自分たちでバズらせるよりも、エピソードや見栄えのする展示の仕方、来館者が投稿したくなる工夫、評判の把握と SNS に踊らされないこと、科学館が SNS を使って何を表現したいのか、グランドデザインはどうするのかなどについて、参加者からの質問を交えつつお話いただいた。

※別紙 3 参照

6. 各館のコロナ対策等事前アンケート

事前に東海ブロック研修会の案内と共に、新型コロナ対策と動画配信についてのアンケートを行った。コロナ対策については、消毒や検温、マスクの着用などはほぼ全ての館で行われていたが、入館時の個人情報収集や入館制限、来館予約については館によって対応が分かれていた。こうした結果を踏まえ、参加館からは、マスクの着用をしてくれない来館者への対応や 2 歳以下は免除している根拠、再生数以外の動画の評価などについて質疑が交わされた。

※別紙 4 参照

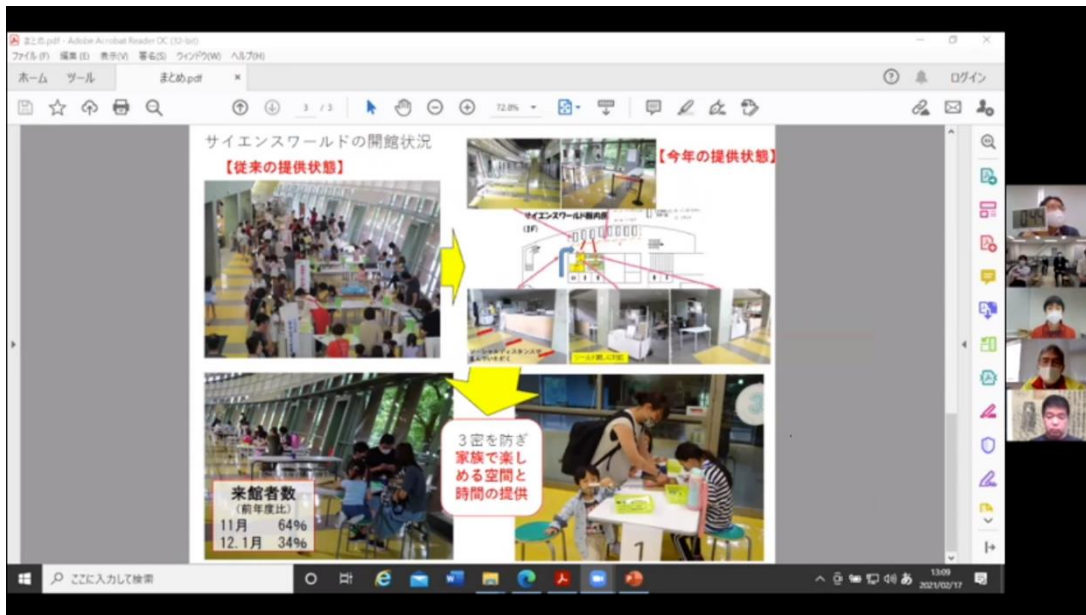
7. 経費

別紙 5 参照

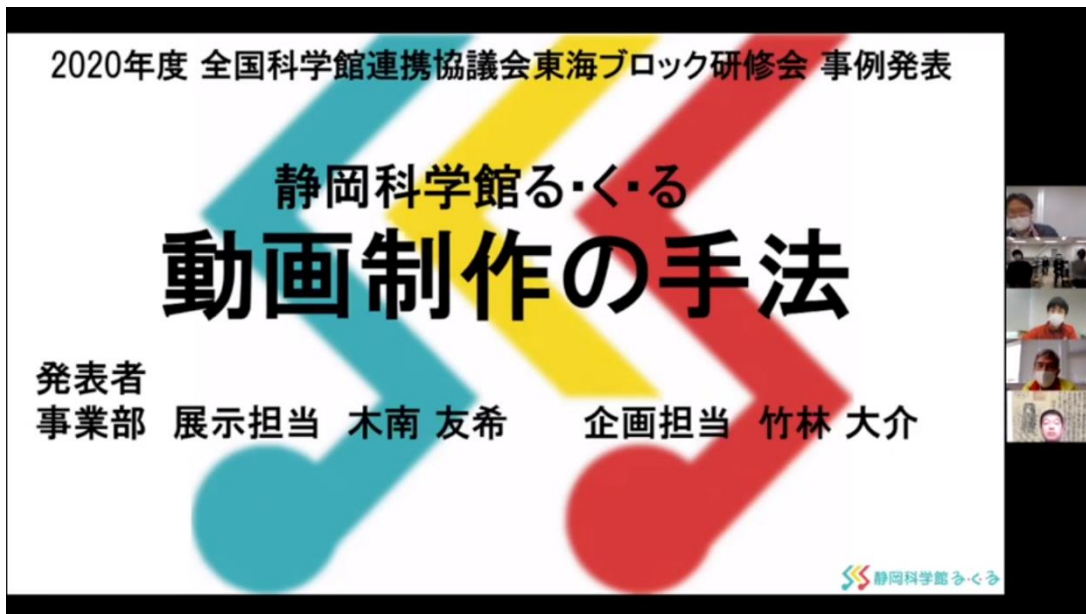
8. 研修会の様子



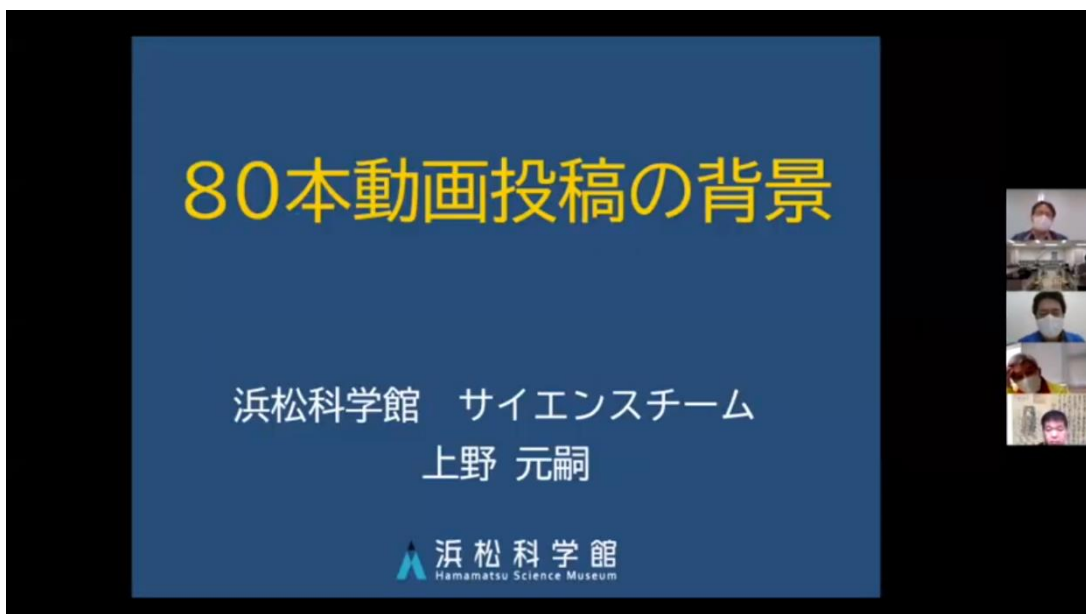
参加者の様子



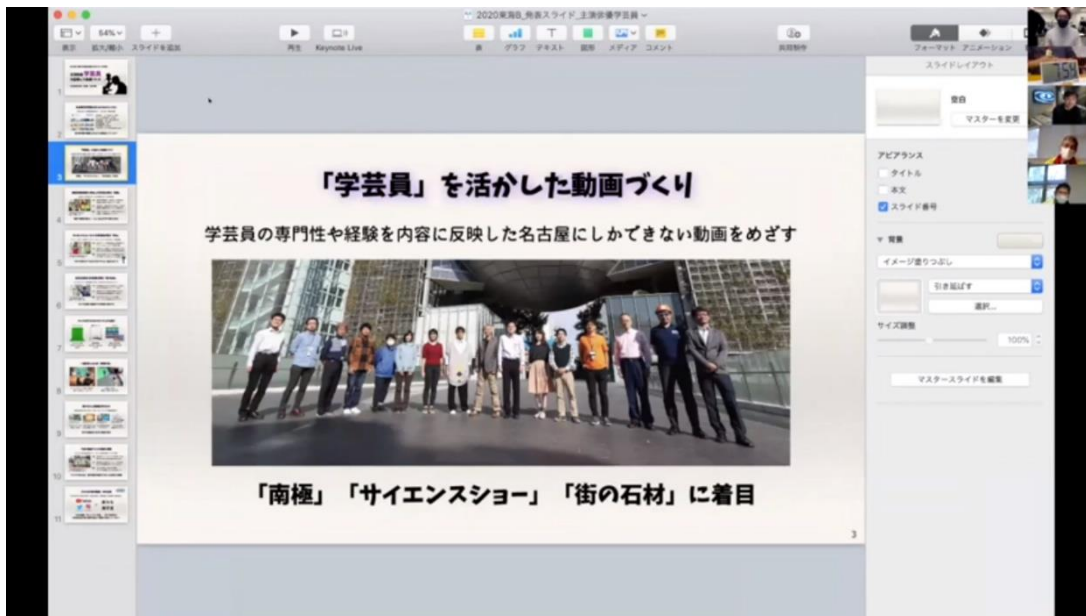
各館の開館状況



事例発表:静岡科学館



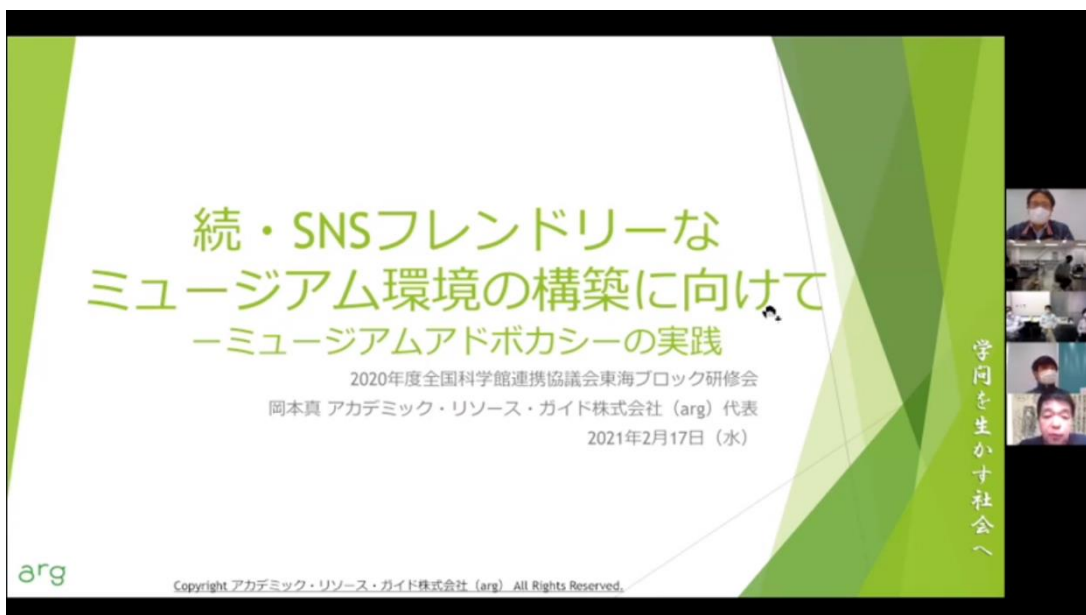
事例発表:浜松科学館



事例発表:名古屋市科学館①



事例発表:名古屋市科学館②



講演会